

- ② 予防接種の助成を活用しよう
- ③ 食べ物の無駄をなくそう
- ④-⑤ **特集** 厚木と相模人形芝居  
歴史を思いつなぐ
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」 ネットは「マイ広報紙」



厚木東・厚木商業高校が再編統合し4月から厚木王子高校に。  
人形浄瑠璃部の伝統は受け継がれていく

## 楽しみつなぐ ふるさとの芸能

西日が差す教室では、CDプレーヤーから流れる三味線と義太夫の語りに合わせ、高校生たちが人形を操っています。文化祭に向けて稽古に励むのは、厚木王子高校人形浄瑠璃部の生徒たち。創部から50年以上、楽しみながら郷土の芸能をつないでいきます。部活の指導に当たるのは、厚木東高校の卒業生を中心に活動する「あつぎひがし座」の皆さんです。

首の傾きや手足の角度、演目に合わせた心情の表現など、培ってきた経験を伝えていきます。

市内には国指定の重要無形民俗文化財・相模人形芝居があり、長谷・林の2座が継承しています。時代とともに形を変えてきた郷土芸能。世代を超えて未来へ受け継がれています。

《4・5面に関連記事》

文化魅力創造課 ☎ 225-2509



5人の部員とあつぎひがし座の皆さん



Q Zoom Up

## コロナ・インフルエンザの予防接種開始

# 予防接種の助成を活用しよう

10月から新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの予防接種が始まり、65歳以上の方は、任意で接種するよりも安く受けられます。さらに、**带状疱疹**の予防接種費用の助成を新設。子どものインフルエンザ予防接種の助成の対象年齢を引き上げるなど、経済的負担の軽減に努めています。

例年、秋から冬にかけて季節性インフルエンザが流行します。発症を予防し、重症化を防ぐには予防接種が有効です。特に重症化しやすい高齢者向けに、定期予防接種を実施しています。

### コロナとインフルエンザは定期接種

定期接種は65歳以上の方を対象に10月7日から始まります。今年から、インフルエンザに加え新型コロナウイルス感染症も定期接種となりました。接種券は不要で、期間内に実施医療機関に予約すると、助成後の金額で接種できます（下欄参照）。

接種期限は2月末までですが、予防のため、希望する方は早めに接種しましょう。予防接種は義務ではありません。受ける前に内容をよく理解し、気にかかることや分からないことがある場合は医師に相談してください。

### 带状疱疹の予防接種費用を助成

市では4月から、50歳以上の方の带状疱疹の予防接種費用の一部助成を新たに設けました。带状疱疹は、水ぼうそうのウイルスが原因で引き起こされる皮膚の病気です。80歳までに約3人に1人が発症するといわれています。生

ワクチンに5000円、不活化ワクチンに1万円を助成し、接種する方の経済的な負担を軽減します（右下欄参照）。

### 子どもの予防接種助成の対象を拡大

10月には、子育て世帯への支援のため、子どものインフルエンザ予防接種費用の一部助成の対象年齢を、今年度18歳になる方まで引き上げました。予防接種の助成を活用して、健康に過ごしましょう。

健康医療課 ☎25-2201・こども家庭センター ☎25-2203（子どもの予防接種）



予防接種は実施医療機関で予約を



### 日頃の心がけと 予防接種で健康を保つ

光ヶ丘医院  
老山 大輔 医師（57）

新型コロナウイルス・インフルエンザ共に、高齢の方がかかると重症化しやすいため、特に注意が必要です。予防には、日頃から低栄養にならないようバランスの良い食事や運動、口腔ケアなどで、抵抗力を高めることが重要です。そして高齢者に関わらず全ての人には、手洗いやマスクの着用が効果的です。また部屋の換気や、冬場は湿度が低いと感染しやすくなるため、加湿も心がけてください。

予防接種を受けると、発症の予防や、かかった際の重症化を防ぐ効果が見込めます。日頃の心がけと予防接種を活用して、健康に過ごしましょう。



### 新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ 高齢者向け 定期予防接種スタート

《期間》10月7日～2025年2月28日

《対象》市内在住で①65歳以上②60～64歳で心臓・腎臓・呼吸器などの重い病気（障害者手帳1級相当）がある一のいずれかに該当する方

《費用》新型コロナウイルス感染症＝2100円  
インフルエンザ＝1500円

☑直接、実施医療機関（市HPに掲載）へ。

10月から新型コロナウイルス感染症も定期接種となりました。対象となる方へ9月に通知を送付しています。

健康医療課 ☎25-2201

愛TV 10/1～



新型コロナウイルス



インフルエンザ

### 新設 带状疱疹 予防接種費用を助成

4月から带状疱疹予防接種費用の一部助成を始めました。接種の際の経済的負担を軽減し、発症の予防につなげます。

健康医療課 ☎25-2201

《対象》市内在住の50歳以上

《助成額》生ワクチン（1回接種）＝5000円

不活化ワクチン（2回接種）＝1回1万円

《接種費用》医療機関により異なる

☑直接、実施医療機関（市HPに掲載）へ。

### 子どものインフルエンザ予防接種 助成対象を18歳まで拡大

10月から助成の対象を拡大しました。発症や重症化の予防のため、希望する方は早めに接種しましょう。

こども家庭センター ☎25-2203

期間 10月7日～2025年2月28日

対象 市内在住の6カ月～今年度18歳になる方

助成金額 1回1000円

助成回数 6カ月～小学生＝2回、中学生～今年度18歳になる方＝1回

☑直接、実施医療機関（市HPに掲載）へ。

※インフルエンザHAワクチンが対象。母子健康手帳と本人確認書類をお持ちください

詳細はこちら



#### ■带状疱疹とは

子どもの頃に感染した水ぼうそうのウイルスが原因で起こる皮膚の病気です。ウイルスは体内に潜伏し、過労やストレス、加齢などで免疫力が低下すると再び活性化して発症します。

発症すると体の片側の一部にピリピリとした痛みや水膨れ、赤い発疹が出てきます。

50歳以上になると発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が発症するといわれています。



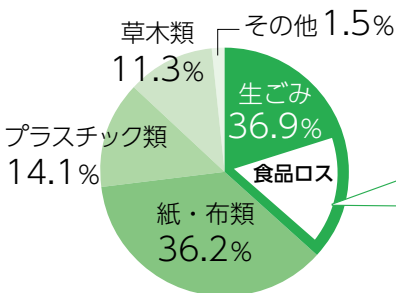




食材が余った時はフードバンクあつぎへの寄付も選択肢に

## 家庭から出たごみの内訳 (2023年度)

燃えるごみの量 3万2347ト



### 食品ロスの内訳

(燃えるごみの総量に  
対して)

未開封食品	7.5%
食べ残し	2.3%
過剰除去	1.6%

### 家庭ですぐにできる食品ロス削減

- ・ 買い物の前に在庫を確認し、必要な分だけ買う
- ・ すぐ食べる時は「てまえどり」を意識し、賞味・消費期限が近い食品から買う
- ・ 食べ切れる量を作り、残さないようにする
- ・ 適切に保存し、食材を長持ちさせる

## Q Zoom Up

# 合い言葉は「もったいない」 食べ物の無駄をなくそう

食べ残しや賞味期限が近いなどの理由で、食べられるのに捨てられてしまう食品（以下、食品ロス）が世界規模で問題になっています。無駄のない買い物や正しい分別など、できることから始めてみませんか。

### 家庭でできる食品ロス削減

家庭からの出る生ごみの約2割は未開封食品で、買すぎた物や余った食材が捨てられています(左グラフ参照)。昨年度、市内から出た食品ロスは3687ト。1人当たり約16を廃棄していることになり、処理に伴う環境への負荷や経費の増大などにつながっています。市ではリーフレットでの啓発や、食品ロスの削減に向けた活動をする団体のサポートなどに取り組んでいます。

家庭での食品ロスを減らすには、食べ物を無駄なく消費していく必要があります。買い物の際に期限が近い物から選ぶ「てまえどり」も、廃棄される食材を減らす方法の一つです(左欄参照)。必要な分だけ買うことや食べ切れる量を作る、期限を意識して食材を使い切るなど、一人一人の日頃の心がけが大切です。

市内には、余った食材や食べ切れない食品を回収し、必要な家庭に無償で提供するボランティア団体「フードバンクあつぎ」があります(左下欄参照)。

### 環境に優しい生活を

米や乾麺、レトルト食品など、家庭で余ったものが市内外から届き、必要とする方に提供されます。代表の成瀬二郎さん(76・長谷)は「食材が余った場合、フードバンクが選択肢の一つになればうれしい。食品ロスを減らし、困っている人の力になりたい」と話します。

適切な量の食材を買って食べ切ることは、食品資源の節約になるだけでなく、ごみの減量になります。市では生ごみの排出量を減らすため、生ごみ処理機を購入する家庭や事業者には費用の一部を補助。導入しやすい環境づくりを進めています(左下欄参照)。さらに、燃えるごみの中には紙・布類やプラスチック類などリサイクルできる資源も含まれているため、適切に分別することでごみの量が減り、リサイクル率も高まります。

10月は食品ロス削減月間です。豊かな環境や資源を次世代に残すため、みんなで「もったいない」の気持ちを持ち、できることから始めてみませんか。

環境事業課 ☎25-2793



## フードバンクの活動に協力を

家庭や企業で余った食品を回収し、必要な家庭に無償で提供します。 ☎フードバンクあつぎ ☎080-6602-2163

《日時》水曜・毎月第3日曜 10～15時

《場所》フードバンクあつぎ事務所(中町1-8-10)

《対象》賞味期限が2カ月以上あり、常温保存できる未開封の物(米・調味料・缶詰・菓子・レトルト食品・飲料水など)や日用品(ペーパー、洗剤)など

☒不要。

## 生ごみ処理機の購入費を補助

生ごみの排出量を減らすため、処理機の購入費用の一部を補助します。

☎環境事業課 ☎225-2793



### 個人

《対象》市内在住で、居住地に設置し適切に維持管理できる方

《処理機》家庭用生ごみ処理機(ディスポーザーは除く)

《補助額》上限2万円(本体価格の5分の4) ※1世帯2台まで

☑購入後1カ月以内に環境事業課や環境政策課、

市HPにある申請書を、直接または郵送で

〒243-8511環境事業課へ。

### 事業者

《対象》市内に事業所のある事業者または1年以上市内に住み事業を営む個人

《処理機》1日に10以上(※)の処理能力がある生ごみ処理機

《補助額》上限200万円(設置費用の3分の2)

※1事業所1台まで

☑設置前に直接、環境事業課へ。



詳細はこちら



詳細はこちら

## 2025年度 放課後児童クラブ 入所児童を募集

市内23小学校区にある放課後児童クラブの入所児童を募集します。

《対象》①各学区内の小学生②保護者全員が就労(15時以降までの勤務)や疾病などで放課後に適切な保育ができない③保護者などが19時までに迎えに来られる一の全てを満たす児童

《時間》平日(学校休業日を除く)=放課後～19時  
土曜・長期休業日など=7時30分～19時  
※日曜、祝日、学校閉庁日、年末年始などは休所

《費用》育成料 = 月額4000円(18時まで)  
月額4800円(19時まで)  
クラブ費=月額3500円(おやつ代他)

☑こども育成課や市HPなどにある入所案内を確認し、申請書と必要書類を、直接または郵送で11月18～29日(必着)に〒243-8511こども育成課へ。※入所中の児童も申請が必要



詳細はこちら

☎こども育成課 ☎225-2582



## 特集 厚木と相模人形芝居

歴史を思い  
つなぐ

相模人形芝居は約300年前に市内に伝わり、娯楽、芸能、文化財として形を変えながら受け継がれています。歴史をつなぐ皆さんの思いを聞きました。

☎文化魅力創造課 ☎225-2509

## 相模人形芝居

神奈川県に伝わる民俗芸能。義太夫節に合わせて人形を動かし物語を表現する。1980年に国の重要無形民俗文化財に指定。

●三人遣い  
一体の人形を3人で操る方法。首と右手を動かし、胴体を支える「主遣い」、左手を操る「左遣い」、足を動かす「足遣い」がある。

●鉄砲さし  
肘を直角よりも広い角度に開き人形が前傾姿勢をとるようにする構え。高い舞台からでも人形の顔がよく見える。

●義太夫節  
物語を語る太夫と三味線で構成。登場人物の人柄や感情を声や音で演出する。

厚木の  
民俗芸能

市内には相模人形芝居を含む6種類の民俗芸能が国や県・市指定の民俗文化財に認定されています。



詳細はこちら

相模の  
ら踊り

「ピンササラ」と呼ばれる竹の楽器を鳴らし、小太鼓に合わせて踊る。江戸時代中頃に始まり、愛甲・長谷ささら踊り盆唄保存会が継承。

## 相模里神楽



「古事記」や「日本書紀」などに描かれる神話を題材にお面を着けて披露する黙劇。相模里神楽垣澤社中が継承。

## 双盤念仏



太鼓と双盤というかねを打ち、「南無阿弥陀仏」を唱える念仏。法雲寺酒井双盤講の「お十夜」などで唱えている。

## 古式消防



火消しを担っていたとび職に伝わる「梯子乗り」や「まとい振り」などの技。市内ではとび職を中心に市古式消防保存会が継承。

伊勢十二座  
太神楽  
獅子舞

神社を祭る式楽、舞楽から生まれた舞。伊勢神宮の信仰を広めるために長持を二輪車に乗せて厚木周辺を巡っていた。

**拍** 子木の音に合わせて、舞台の幕が開きます。演目は相模人形芝居の代表作の一つ「傾城阿波の鳴門・順礼歌の段」。主君の刀を探す夫婦の家に両親を連れて旅する少女お鶴が訪れる場面から始まる物語です。お鶴が実の娘と気付きながらも送り出す母の姿は観客を引き付けます。人形を操るのは長谷座の皆さん。3人で息を合わせ、人形に命を吹き込みます。

## 過去からの思いを守る

長谷座は淡路の人形遣いが技を伝えたことが始まりといわれ、それを示す記念碑や人形の面が長谷の堰神社に残されています。座長を務めるのは井上真弓さん（68・三田南）。30年前、座長を務めていた父が亡くなったことをきっかけに座に入りました。「初めは話の内容も操作の方法も全く分らなかった。勉強する中で、奥深さが面白くなり、のめり込んでいった」と振り返ります。

座員は16人。担い手不足に直面した時期もありましたが、人形芝居の基礎を学ぶ郷土芸能学校や大学での出前講座などをきっかけに座員を集め、歴史をつないできました。3年前、座長に就任した井上さんは、人形芝居を見たいと思う人が増えれば、おのずとつながっていくと考えています。座員の技術向上のため、他県で活躍する人形遣いを講師に招き指導を受けています。「見てもらえる芝居にするためには、自分たちで練習するだけでは足りない。もっと技術を高め、より良い芝居

## 忘れられない景色

時代が流れ、身近な場所で披露される機会が減った相模人形芝居。二つの座は芝居に触れてもらうため、学校や公民館での公演、講座などを続けてきました。その活動の歴史が厚木王子高校に伝わっています。同校の人形浄瑠璃部は1971年、林座の座長と厚木東高校の教頭が呼びかけて集まった約25人の生徒で始まりました。現在は5人の部員があつぎひがし座のメンバーの指導の下で練習を重ねています。部長の植木悠太さん（2年）

## 難しいけど楽しい

相模人形芝居に欠かせない存在が義太夫節です。太夫の語りと三味線の音で登場人物の人柄や心情を表現します。

国の重要無形文化財「義太夫節」総合認定の保持者・竹本土佐子さん（本名林ミチヨ・81・下荻野）は、6歳からこの道を歩んできました。国内外で公演を続けながら、15年に義太夫節を指導しています。その一人、入江敦子さん（57・下川人）は人形浄瑠璃部の出身です。口ずさめるまで聞いていた義太夫節に憧れ、習い始めた入江さん。39年前からは竹本さんの下で稽古を続け、共に長谷座や林座の

## 手を尽くしてつないでいく

相模人形芝居に長年関わってきた竹本さんは「昔からこの土地に根付き、伝わってきたいるから郷土芸能と呼んでもらえる。簡単に作れないからこそ、途絶えさせてはいけない」と、自身の経験をもとに人に伝えています。

今でも他の太夫に師事し、日々稽古を続けながら技を磨く竹本さん。録音や映像では学べないことが多くあると、人から人への継承を大切にしています。「技をつなぐにはとにかく一生懸命やるのが大切。そうすれば、見ている人にも伝わり、応援してくれる」と芸能と向き合い続けています。長谷座・林座 あつぎひがし座は、11月に開催される郷土芸能まつりに出演します。「動かすタイミングを合わせて」「人形の目線が下がっているよ」。より良い舞台を作るため、歴史をつなぐため、今日も座員たちは人形に命を吹き込みます。



本番の前に動作を練習



あでやかな衣装をまとった三番叟の人形



芝居の流れを全員で確認



長谷座座長の井上さん



手を動かすタイミングを合わせる



林座座長の葉山さん



公演で義太夫節を語る入江さん（左）



稽古をつける竹本さん

郷土芸能学校  
相模人形芝居

長谷座と林座が人形の操作方法などを教えます。

**日時** 11月23日、12月14・21日、2025年1月11・25日、2月8日（全6回）  
林座＝10～12時 長谷座＝13～15時  
あつぎ市民交流プラザ

**場所** 各回10人程度 **費用** 無料

**対象** 電話またはファクス、Eメールにて住所、氏名、電話番号、希望の座を書き、11月1日までに文化魅力創造課 ☎225-2509・☎223-0044・✉8650@city.atsugi.kanagawa.jpへ。先着順。



詳細はこちら

## 郷土芸能まつり 地域に伝わる郷土芸能の祭典を開催します。

## ■郷土芸能発表会

**【日時】** 11月2日 13時30分～15時45分  
**【出演】** 長谷・愛甲ささら踊り盆唄保存会、市古式消防・馬場太鼓保存会、相模里神楽垣澤社中、法雲寺酒井双盤講

## ■相模人形芝居特別公演

**【日時】** 11月16日 13時30分～15時30分  
**【出演】** 相模人形芝居長谷座・林座 あつぎひがし座

いずれも会場は厚木シティプラザ。定員80人。無料。☎不要。先着順。



## ジャズの音色とグルメを堪能 厚木公園で「あつぎジャズナイト」を開催



二日間で約1万2000人が来場

夏の夜風を感じながら生演奏が楽しめる「あつぎジャズナイト2024」を、厚木公園で開催しました。来場者は、ご当地グルメと地ビールを片手にジャズの音色を楽しみました。

イベントは、市と商店会関係者などで行く「まちなか活性化プロジェクト」が実施し13回目。会場には、名産のどん漬を使ったメニューや地ビールなどを味わえる18店舗が出店。会場近くの「本厚木キャビン」「マッカーサーギャレージ」「本厚木ミロード」でもイベントが同時開催されました。

市外から初めて訪れた川上薫さん（56）は「生演奏は想像以上に迫力があり、気分が盛り上がった。おいしい食べ物もあり、楽しい時間を過ごせた」と笑顔を見せました。

## 高校生と大学生らが環境美化や非行防止などを啓発 本厚木駅周辺で心と街のクリーン作戦を実施

この取り組みは、学生でつくる実行委員会を主体に毎年開催。市と教育委員会、青少年相談員連絡協議会、厚木警察署などがサポートしています。36回目の今年は、「紡ぐ未来・たった一度の行いが、あなたの人生を変える」を標語に設定。6月から啓発ポスターやチラシ作りなどの準備を進めてきました。

実行委員長の山下悠光さん（厚木中央高校3年）は「人生は人との出会いで変わることがある。活動が誰かの助けとなり、心に響けばうれしい」と話しました。



啓発物品を手渡す学生たち

## スポーツを通じた地域づくりで連携 プロバスケットボールチームと協定を締結

スポーツの聖地を目指す市は、バスケットボールB3リーグに所属する「湘南ユナイテッド藤沢」と協定を結びました。スポーツ振興をはじめ、青少年の健全育成や教育支援、市民の健康増進、商業・観光振興、地域活性化、魅力発信などで協力していきます。

締結式で小川静雄代表取締役社長は「3年目のチームで、上のリーグを目指している。選手やフロントなどが一つになり、愛されるチームになりたい」とあいさつ。山口市長は「トップアスリートを身近に感じられ、スポーツ振興につながる。力添えをい

ただきながら聖地づくりを進めたい」と話しました。同チームは10、12月に4試合、荻野運動公園でリーグ戦に臨みます。



9月には荻野運動公園で試合の無料観戦や小学生の教室を実施

## 恒久平和への誓いを新たに 保健福祉センターで戦没者追悼式を開催

市内1500人余りの戦没者を追悼する式典を、保健福祉センターで開催しました。188人が参列し、追悼の言葉や平和への誓い、献花などを実施しました。

山口市長は「戦争で亡くなられた皆さまに、心からご冥福をお祈り申し上げます。平和を求める思いが重なることで、世界の恒久平和に向けた大きな動きにつながる」と式辞を述べました。市遺族会の潮田春男会長は「終戦から79年が過ぎ、戦争の事実が風化されようとしている。後世に語り継ぎ、二度と繰り返されないようにすることが、今を生きる私たちの使命」などと追悼しました。

市では、10月から市民の皆さんが平和への思いを込めて描いた絵手紙を、あつぎ市民交流プラザや公民館に巡回で展示します。



平和の詩を朗読する牧田駿平さん（緑ヶ丘小5年）



厚木・秦野・伊勢原市、愛川町、清川村の5市町村が観光振興で連携している「県央やまなみ地域」の魅力を、毎月順番に紹介します。紙面では伝えきれない5市町村の観光にまつわるコラムを、ニュースサイトでも紹介します。

### 第5回 素朴にたたずむ史跡

歴史ブームが続いています。身近に素朴にたたずむ史跡を訪れて、うずもれた歴史への思いをはせてみるのも面白いものです。「近場のいなか」を称する愛川町の街角には、戦国時代から明治期に至るまで、さまざまな史跡が残ります。田園の中に時の流れを体感できるスポットや、名産のスイーツも楽しめます。



愛川の「三増峠の戦い」の古戦場に建つ石碑

ニュースサイトで詳しく紹介しています▶

商業観光課 ☎225-2820



8月29日の夜中から30日未明にかけて、数回スマートフォンのかたまりしい警戒音が鳴り響きました。台風10号の接近による大雨に伴い、市は災害対策本部を設置。七沢の土砂災害警戒区域や荻野・玉川沿いで災害発生危険性が高まったことから、警戒レベル4・避難指示を発令しました。人命に関わる被害はなかったものの、道路冠水やがけ崩れ、浸水、倒木などの爪痕を残しました。台風10号は刻々と進路が変わり、

今回の台風や8月9日に発生した震度5弱の地震など、災害はいつ身近な場所で見られるか分かりません。できる備えにみんなが取り組み、災害に強いまちにしていきたいです。



岡津古久のがけ崩れ現場を自治会長や地元の皆さんと確認

本体から離れた場所も大雨に見舞われるなど、備えが非常に難しいものでした。市では、数日間により配備体制をとり、職員が交代で避難所運営や被害対応、パトロールなどに当たりました。1時間当たり20ミリ以上の雨が断続的に降り続けた時間帯もあり、公民館や



# タウンガイド

10月						
日	月	火	水	木	金	土
	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号  
 FAX=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ  
 📞=講座予約システム(インターネットで申し込み可)  
 愛TV 10/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ  
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

## あつぎのしゃしん。



「実りの秋」

#9月10日撮影

#お米

#稲刈りシーズン

#niceatsugi

市公式インスタ

グラムで公開中



## 参加者募集 ATSUGI婚活ツアー

### 森林セラピー&ミニセミナー

厚木の自然や交流会を楽しみながら、すてきな出会いを見つけてみませんか。 ☎企画政策課 ☎225-2450

日時 11月23日 9時30分～13時

場所 レンブラントホテル厚木、七沢森林公園他

内容 交流会、森林セラピー、アピール・告白タイム、ミニセミナー、マッチング発表

対象 25～39歳の男女各15人(学生は除く。男性は市内在住在勤)

費用 1500円

☎市役所や公民館にある申込書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで10月25日(必着)までに〒243-8511企画政策課 FAX225-3732・✉1100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。市HPからも申し込み可。



詳細はこちら

## アドベンチャー隊ハロウィンアクティビティラリー

10月26・27日、10時30分～16時。アミューあつぎ他。射的や輪投げなどを全て体験した方に賞品あり。小学生以下1000人。無料。☎不要。先着順。☎商業観光課 ☎225-2840。

## 斎場施設見学会

10月20日、10時30分～12時。市斎場。施設見学と葬儀の説明。定員30人。無料。☎10月1～19日に市斎場 ☎281-8595へ。先着順。



## 危険物取扱試験受験準備講習会

11月9日、9時30分～17時。愛川町消防本部。試験に向けた講習。危険物取扱者試験を受ける方10人。1万1000円(受講料、テキスト代)。☎消防本部や消防署・分署にある

申込書と費用を直接、10月7日から予防課 ☎223-9369へ。先着順。

## 市民法律講座

11月①1日②8日③15日④22日(全4回)、18時～19時45分。あつぎ市民交流プラザ。①不動産の相続②保証の法律相談③避けようネットの消費者トラブル④犯罪被害者支援の概説を弁護士が講義。希望する回のみ受講可。市内在住在勤在学の方30人。無料。☎10月1～25日に市民協働推進課 ☎225-2100へ。先着順。 ☎

## ごみ中間処理施設工事説明会

10月19日、15時～16時30分。環境センター。金田地区で2025年12月から稼働する施設の工事や事業の進捗を説明。☎不要。☎厚木愛甲環境施設組合 ☎297-1153。

## 競争入札参加資格の定期申請を

市が2025年4月1日～27年3月31日に発注する建設工事・業務委託などの入札に参加する事業者は定期申請が必要です。☎11月30日までにかながわ電子入札共同システムHPで申請し、提出書類を簡易書留で12月2日(消印有効)までに〒

243-8511契約検査課 ☎225-2171へ。

## 児童扶養手当の制度一部変更

11月分から①第3子以降の児童に係る加算額②全部・一部支給の判定基準となる所得限度額が引き上げられます。児童扶養手当の認定を受けていない方は10月中旬に申請すると、11月分から支給される場合があります。詳しくは市HPに掲載。☎子育て給付課 ☎225-2241。

## プロバスケットボールチーム湘南ユナイテッドBCのチケットを販売

市とスポーツを通じた地域づくりに関する協定を締結しました。市内で開催する試合のチケットをお得に購入できます。

《日時》①10月12日、15時～②13日、14時～《場所》荻野運動公園《席種》2階自由席《価格》1000円(市内在住在学の小・中学生、高校生は無料)《対象》市内在住在学の方。☎不要。本人確認書類をお持ちください。☎スポーツ魅力

創造課 ☎225-2531。詳細は市HPに掲載。

## あつぎ郷土博物館の臨時休館

展示工事に伴い、10月10・11日は休館します。☎あつぎ郷土博物館 ☎225-2515。

## 平和への思いを込めた絵手紙(ピースメッセージ)パネルを展示

①10月1～15日＝あつぎロードギャラリー②10月16日～2025年3月＝各公民館。市民の皆さんが平和への思いを描いた絵手紙やメッセージの展示。☎地域包括ケア推進課 ☎225-2200。



## マイナンバーカードで便利に

### コンビニで証明書を交付

マイナンバーカードを使ってコンビニエンスストアで住民票の写しや印鑑登録証明書などの証明書が発行できます。

#### 《取得できる証明書》

- ①住民票の写し②印鑑登録証明書
- ③戸籍謄本・抄本④付票の写し
- ⑤市・県民税(課税・非課税)証明書

※①②⑤は市内在住の方のみ取得可

《費用》300円(③は450円)

《時間》6時30分～23時(③④は平日9時～19時30分)

《場所》マルチコピー機があるコンビニエンスストア



詳細はこちら

☎市民課 ☎225-2110・市民税課 ☎225-2012(税の証明)

## 楽しく防災体験

### あつぎ消防フェア

消防車両の見学や防火服の着体験をしながら楽しく防災を学びませんか。

☎予防課 ☎223-9371

《日時》10月6日 10～15時  
雨天中止(市HPに掲載)

《場所》ぼうさいの丘公園

《内容》消防車、救急車などの展示、スタンプラリー、記念撮影など

《費用》無料

☎不要。



## ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課 ☎225-2043

## 9月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆新しい複合施設では気軽に市民が集まれるスペースがあるのがうれしい／70代男性 ◆複合施設の説明が分かりやすく完成が楽しみになった／30代女性 ◆子どもを保育園に通わせているので幼稚園にも関心が持てた／30代女性 ◆救急車を必要とする人のために適正に利用するのは大切／60代男性 ◆子どもを救急フェアに連れて行きたい／30代女性 ◆チョウトンボを探しに行きたくなった／50代女性

## 編集後記

小学生の頃、防災頭巾を敷いて体育館で見た相模人形芝居。言葉遣いが難しく、物語は理解できませんでしたが、太夫の声や人形の動きに感動したこと、公演後の体験で持った人形がずっしりと重たかったことを覚えています。人形芝居に関わる皆さんの民俗芸能に向き合う思いを知った今、振り返ってみると、当時の私が感じた人形の重さはその切実な願いだったのかもしれない／野口



あつぎ郷土博物館 特別展

ドグウ集まれ!

期間

10月12日~12月8日

展示  
解説

10月12日、11月9日、12月8日 14~15時  
要。

講演会

■土偶入門=10月19日

◆縄文世界の顔身体表現  
土偶・土器・石棒を中心に=11月4日

●ドグウ集まった!=12月1日

いずれも14~16時。各回50人。直接、  
電話または、ファクスで10月9日◆25日●11  
月21日までにあつぎ郷土博物館へ。抽選。

イベント

■ミニ土偶作り体験

日時 11月9日 9時30分~16時

内容 ねん土で土偶を作る

定員 20人

直接、電話またはファクスで10月30日ま  
でにあつぎ郷土博物館へ。抽選。

■土偶マイム

日時 11月24日

①11時~②14時~(各回30分)

内容 土偶がテーマのパントマイム

定員 各回50人

要。先着順。

市内で出土した土偶や、国の重要文化財に指定されて  
いる土偶などを展示します。その不思議な魅力に触れ、  
縄文時代に思いをはせてみませんか。

あつぎ郷土博物館 225-2515・246-3005

独特な表情を  
楽しんで

文化魅力創造課  
佐藤 健二(52)

土偶は人を模したと思われる人形  
で、当時の人々の精神世界を支える祈  
りの道具と考えられています。時代によ  
ってデザインの流行もあり、みんな  
独特な顔をしているので表情を見る  
だけでも楽しめます。会場には、山梨  
県や群馬県で出土した国の重要文化  
財の土偶なども展示します。なぜ作っ  
たんだろう?どんな思いが込められ  
てるんだろう?と自由に想像しながら  
見てみてください。

詳細はこちら

《写真提供》山形県立考古博物館、都留市教育委員会、相模原市立博物館、横浜市歴史博物館

野外  
彫刻  
造形展

あつぎ青空アート展

秋空の下、プロの作家や子どもたちが作った作品の展示やワー  
クショップなどを開催します。

文化魅力創造課 225-2508

期間

10月6~14日

場所

ぼうさいの丘公園

10月6・12・13・14日はキッチンカーも出店

《ワークショップ》

・かざぐるまアート教室=10月6日。50人。無料

・手形アート教室=10月6~14日。無料

・野点=10月12・13日。無料

・木の実アート教室=10月12・13日。150円

・まが玉づくり教室=10月14日。100人。200円

いずれも10~  
15時。費用は材  
料費。要。  
先着順。

自然歳時記

●ヒトスジシマカ●  
ハエ目カ科

ママコノシリヌグイの花に体長5ミリのほどの小さなヒトスジシマカが止まり花の蜜を吸っていた。雄は花の蜜や樹液を吸い、雌は人の血を吸うので気をつけよう／相模川、岡田の河川敷で見つけた。 写真・文／吉田文雄

河川敷は、コセンダングサやミゾソバの花が目立つ。ミゾソバのそばに小さなママコノシリヌグイの花が見えた。名前はかわいそうだが、小さなピンク色の花が集まって咲きとても美しい。その花に小さな蚊が止まり、一心不乱に蜜を吸っていた。この蚊は、触角に細い毛のある雄のヒトスジシマカで、雌は産卵のため栄養の多い人や他の生物の血も吸うので注意が必要だ。

対策として、蚊の嫌うハーブ類を植えたり、産卵場所の池や沼、庭の水たまりを整理したりしよう。蚊は風が苦手なので風通しを良くし、生活行動を察知し快適に過ごそう。

厚木市の人口  
(9月1日現在)

世帯数

10万6127世帯(前月比44世帯増)

人口

22万3791人(前月比1人増)

男11万5303人・女10万8488人

「広報あつぎ」では、自主財源確保のため広告掲載事業を実施しています。広告掲載の申し込みは(株)横浜メディアアド 045-450-1808へ。